

明るい養老

第113号
2015年
8月

発行
日本共産党
養老町支部

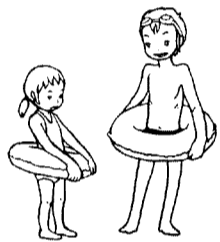
中央委員会HP
<http://www.jcp.or.jp>

水谷久美子
(34)-0062
石井 正和
(32)-2657
野村 勝
(32)-1703



戦争法案推進勢力を 追い詰めよう。 来年の参院選予定 候補を発表

2015盛夏 暑中お見舞い 申し上げます



戦争法案の廃案を目指して全力を挙げます。

去る七月十五日、自民公明与党は国民多数の反対の中、安保関連法案(戦争法案)を衆院で強行採決しました。また同日、日本共産党は創立九十三周年を迎えました。戦後七十年正念場の夏に全力を挙げて戦争法案廃案の為に力を尽くします。

この法案は条約や予算と違つて自然成立は有りません。成立の為には、もう一度参議院で強行採決が必要になります。採決を強行すれば内閣が持たない。そんな状態まで世論の力で追い込んでゆきたいと思えます。

先の養老町議会六月定例会では、水谷議員が議員運営委員会に諮り、この法案の「慎重審議を求め意見書」の採決を促す合意が出来ていました。が、直前になって、県議の横やりが入って、採決は見送りになってしまいました。



炎暑の中街頭から訴えています。

国民の運動は確実に政府を追い込んでいます。

複数の町議に圧力をかけ、採決をやめさせたのは誰でしょう? 自民党岐阜県連? 榎橋泰文代議士? それとも村下県議自身なのか? いずれにしても政府与党は地方の動きに神経をとがらせています(隣の海津市では意見書を採択)。

もともとこの法案は六月中に衆院通過、八月上旬に参院通過、成立のめくりみでした。私たちの運動が政府の予定狂わせています。廃案は可能です。

町議選の結果について

先の四月二十六日投票の養老町議選では、八期目を目標とした水谷議員が過去最高の得票と得票率(八%)で当選することが出来ました。

同じ地区から元職が立候補する状況の中、奮闘していただいた後援会員、赤旗読者、地域住民有志の皆さん、水谷候補に一票を託して頂いた町民の皆さんに心よりお礼を申し上げます。

引き続き二元代表制の一方の代表である議会の価値と役割

最終投票率	54.11%		
町会議員	水谷くみ子		
日本共産党養老町支部			
町議選結果			
当	北倉義博	1	469
当	野村永一	1	330
当	吉田太郎	1	309
当	松永民夫	1	228
当	水谷久美子	1	175
当	早崎百合子	1	168
当	長澤龍夫	8	85
当	林 輝見	8	53
当	岩永義仁	8	18
当	田中敏弘	8	09
当	大橋三男	7	67
当	青山貞一	7	62
当	三田正敏	6	63
当	村上 毅	1	19
当	沢田 勇	3	7

割を高めるため、皆さんの声に耳を傾け奮闘する決意です。暑さ厳しき折、くれぐれもご自愛のほど、また来年の参院選では自民公明の戦争勢力を追い詰める日本共産党への一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

二〇一五年 八月

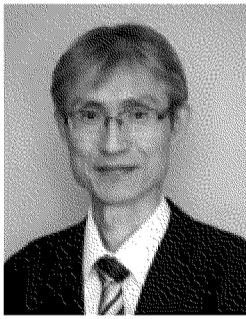
町議選結果

2016参議院
比例代表
予定候補
武田良介 氏
(たけだりょうすけ)



- 1979年、長野県中野市生まれ
- 信州大学教育学部卒
- 党長野県常任委員
- 家族は妻、5歳、3歳、1歳の3男

2016参議院
岐阜選挙区
予定候補
高木光弘 氏
(たかぎみつひろ)



- 1959年、岐阜県垂井町生まれ
- 名古屋工業大学II部工業化学科卒
- 党岐阜県委員会副委員長
- 掛斐郡池田町在住、家族は妻

子や孫たちの為に私たち世代の責任を果たしたい

町議選開票の夜、孫と共に

私は弁護士グループが中心になって開催した、戦争法案の廃案をめざす二つの「もう黙つとれん」の集会に参加してきました。七月二日大垣で、更に二十六日岐阜市で開かれました。八月の末にも予定されています。自分の世代の責任を果たしたいと思います。水谷くみ子



志位和夫委員長からのメッセージ



闘いは、戦後七十年を経た今、日本列島を揺るがして、日々広がっている。平和と民主主義を希求するエネルギーが、いかに巨大なものかを示している。ありませんか。

念講演会にあたって訴えた。日本の未来のために、どうか日本共産党を強く大きくしたい。

憲法違反の戦争法案を、必ず葬り去ろうではありませんか。戦後最悪の安倍政権を、みんなの力で打ち倒そうではありませんか。

党創立九十三周年記念講演から

しんぶん赤旗をお読みください
日曜版 月823円
日刊紙 月3497円

上程されなかつた幻の「意見書」(案) 抜粋
 安全保障関連法案の慎重審議を求める意見書(案)

政府が今国会に提出した「安全保障関連法案」の国会論戦が五月二十六日から本格的に始まりました。

憲法解釈を大きく変えるきわめて重要な法案です。にもかかわらず、実質十一本に及ぶ法案を一括し三カ月以内に一挙に成立させようとすることに国民の懸念が広がっています。

以上の理由で、法案の慎重審議を行い、少なくとも今国会で成立させることなく、国民的議論を十分に尽くすことを強く求めます。

以上、地方自治法第九九条の規定により意見書を提出する。

平成二十七年 月 日

岐阜県養老郡養老町議会議長 野村 永一

衆議院議長、参議院議長 内閣総理大臣



★補正予算の7割以上が千三百年祭関連

六月議会
 町の一般会計で賄おうとしていた、養老改元千三百年プロジェクトなどの予算が、政府による「地方創生交付金」(所謂バラマキ)が公布されたため、二千七百万近い補正予算が生まれ、財源の置き換えとなりました。

★斎苑横領問題、刑事は不起訴に?

去る六月二十六日、刑事事件としての「横領」を審理している岐阜地検大垣支部は、被告(元嘱託職員)に対して不起訴の決定をしました。

横領の事実を認めているのに「不起訴」とは!議会は納得できない!

しかし議会は裁判当事者ではないので、原告(横領の被害者)である町が検察審査会に対して不起訴に対する不服審査請求を出すように申し入れました。

★斎苑横領問題、民事では和解提案が不調に

「預けた一千万も返してほしい!」?

この横領事件については、町は横領金額の損害賠償を求める民事裁判の意向も示しています。

五月の全員協議会で議会は町長から賠償金額千三百八十七万八千九百九十九円での和解調停が成立見込みであると報告を受けていました。

ところが六月十日の最終調停で元嘱託職員側は「金額に納得できない」「町に預けた一千万も認識が違う」返してほしいと言わなければかりに、和解を拒否してきました。

この件にあたって民事調停不調の後、元嘱託職員の担当弁護士は辞したようです。

六月議会

★二元代表制に対する町長の不見識

六月二十六日、田中議員の質問に対する町長答弁を、水谷議員も含めた複数の議員が問題視しました。

田中議員の質問は、地方自治の二元代表制に対する町長の見解を問うたものでしたが町長からは耳を疑うような答弁がありました。

◆町長答弁◆

「地方議員は特定の団体や利益集団から選ばれる『特定の代表』であり、一方首長は全有権者から直接選ばれる『全住民の代表』である。」

「???」

「おいおい、ちよつと待て」では議員は全有権者から直接選ばれてないの?逆に町長といえど特定の利益集団から選ばれる事はいくらかもあるじゃないか。大橋町長もこのケースでしょ。どんな集団から支援されようが、ひとたび選出されれば、議員も首長も全住民に対する法的・道義的責任を負います。

そもそもこの答弁ではなぜ二元代表制を採っているかの説明になっていません。

議会は首長制度の欠陥を補うために不可欠

首長選挙は多様な民意が一人の代表者に集約されてしまふという制度上避けられない

議会は言論の府 あなたの声届いていますか?

5月臨時議会と6月定例議会より、6月定例議会の質疑討論は議事録未集計に付き、次号に掲載します。

議員氏名 敬称略 議席順	一般質問の件数	議案質疑・討論	出欠状況
北倉 義博	0	0	出
岩永 義仁	3	3	出
長沢 龍夫	0	0	出
大橋 三男	0	1	出
三田 正敏	2	0	5月臨時議会で副議長に選任
吉田 太郎	0	1	出
早崎百合子	2	1	出
野村 永一		議長	5月臨時議会で議長に選任
田中 敏弘	2	3	出
松永 民夫	2	2	出
林 輝見	0	0	出
青山 貞一	0	1	出
水谷久美子	3	7	出



斎苑使用料は支拂い可能(水谷)

★養老公園問題と斎苑使用料の支払い問題を質す

欠陥があり、原理的にこの欠陥から逃れられません。だからより多様な民意を代表している議会に強い権限を与えて、行政権にブレーキを掛けるようにしています。

一、民意は多様なものである
 二、行政権は濫用されやすい
 この二つが民主主義の制度設計の前提になっていることを肝に銘ずるべきです。

改選後の初(定例)議会にあたって、私(水谷)は次の三点で一般質問に臨みました。

一、旧養老女子高校の利用
 二、養老公園の整備状況
 三、斎苑横領問題

詳細は今月配布された「議会だより」と赤旗添付の「明るい養老日曜版」をご覧ください。

今議会では意見書の上程に横やりが入ったり、町長答弁の一部が後から削除されたり審議資料が後から配布されたり(水谷が指摘)、また町長による議会人事への介入が目につくなど、まさに「法的安定性」に欠けるものでした。

「頑張つて下さい。戦争は絶対に駄目」と街中に駆け寄ってくれたおばあちゃんの顔が目につかびます。

七月十九日付 しんぶん赤旗日曜版より

安倍首相は愚劣

映画監督 宮崎 駿さん

「安倍総理は、自分が憲法を変えた偉大な男として歴史に残りたいと思っている。愚劣なことだと思ふ」
 宮崎駿監督・七月十三日

